

# 平成30年度決算に基づく

# 財政健全化判断指標の公表

平成30年度の決算報告と合わせ、地方公共団体の財政の健全化に関する法律(以下、財政健全化法)に基づき、健全化判断指標を公表します。

くわしくは 財政課 財政係 ☎(21)5162

## 財政健全化法とは

財政健全化法は、自治体の財政破綻を防ぐため、国が財政状況をより詳しく把握し、悪化した団体に対して早期に健全化を促すためのものです。

この法律では、自治体が財政破綻しないようにチェックするため、5つの目安(指標)が示されています。一つでも基準を達成しない場合は、早期に対応しなければなりません。

## 5つの目安(指標)とは

### ①実質赤字比率

一般会計を中心とした普通会計が赤字になった場合の、収入に対する赤字の割合です。普通会計が赤字でないかをチェックします。

### ②連結実質赤字比率

国民健康保険事業特別会計や下水道

道事業特別会計などを加えた全ての会計の合計が赤字になった場合の、収入に対する赤字の割合です。全会計を合わせて赤字でないかをチェックします。

### ③実質公債費比率

収入のうち、どのくらいを借金の返済に充てているかを表した割合です。現時点での借金返済金額が大きすぎないかをチェックします。

### ④将来負担比率

収入に対する実質的な借金残高(これから返済しなければならぬ借金)の割合で、借金残高から貯金を引いた残りの額が年間収入の何%になるかを表した数値です。将来返済しなければならぬ借金が大きすぎないかをチェックします。

### ⑤資金不足比率

水道事業会計などの企業会計が赤

字の場合の、事業規模に対する赤字の割合です。企業会計が赤字でないかをチェックします。

## 各指標の市の数値

左下の表のとおり、平成30年度決算において、市は③実質公債費比率が5.9%、④将来負担比率が62.8%となり、④の数字も早期の対応が必要となる基準を下回っています。

これらの数値を家計に例えると、年収の5.9%を借金の返済に充てています。また、将来的に返済しなければならぬ借金残高が、年収の62.8%ということになります。

前年度と比べると、③実質公債費比率は0.3ポイント増加しております。これは、合併特例事業債や臨時財政対策債など地方交付税で補填される割合が大きい有利な地方債を活用することで実際の返済負担が軽減されている一方で、借金残高そのものが増えているため元利償還金の額が増加したことが主な理由です。

また、④将来負担比率は3.9ポイント増加しており、前年度と比べて市の将来的な負担が増えていることを示しています。これは、合併特例事業債や過疎対策事業債など地方交付税で補填される額が増えている

反面、本庁舎および栗山庁舎の建設事業の実施に伴い、地方債残高が増えたことによるものです。

なお、①実質赤字比率、②連結実質赤字比率、⑤資金不足比率については、各会計とも黒字のため表示していません。

財政健全化法の基準で見た場合、市は早期に健全化のための対応を必要とする状況にはなっていません。しかし、地方交付税に依存していることや借金残高が多いことなど、財政状況が厳しいことには変わりはありません。こうした点にも注意しながら、今後も財政の健全化を図っていきます。

表：平成30年度の市の指標一覧

5つの目安	市の数値 (前年度比)	早期の対応が必要となる基準
①実質赤字比率	-	12.12%以上
②連結実質赤字比率	-	17.12%以上
③実質公債費比率	5.9% (+0.3ポイント)	25.0%以上
④将来負担比率	62.8% (+3.9ポイント)	350.0%以上
⑤資金不足比率	-	20.0%以上

# あなたの血圧は大丈夫？

## 脳卒中と心筋梗塞を予防しましょう！

### ～家庭での血圧測定とヒートショック対策について～



くわしくは 健康課 ☎ 21-2756

秋が深まり、だんだんと朝晩の冷えを感じる季節になってきました。

皆さんは家庭で自分の血圧を測っていますか？ これから寒くなってくると、血管が収縮し、血圧が上昇しやすくなります。高血圧が慢性的に続くと動脈硬化が起こり、心臓病や脳卒中などを起こしやすくなります。そこで重要になってくるのが、家庭での血圧測定です。

今年、高血圧の診断基準などが示されている「日本高血圧治療ガイドライン」が新しくなりました。ガイドラインでは、自分で測れる身近な「家庭血圧」についても定めており、「診察室血圧」よりも「家庭血圧」を優先することとしています。

	診察室血圧（病院・健診など）	家庭血圧
高血圧の診断基準	140/90mmHg 以上	135/85mmHg 以上

## 【家庭血圧の正しい測り方】

血圧は生活習慣や体調、時間帯、気温などによって上下するため、年1回の健診や定期通院などで血圧を測るだけでは、血圧管理としては不十分です。家庭で血圧を測り、記録を付けてみると、自分の血圧の傾向を知ることができます。

◎測る時刻 朝…起きて1時間以内。排尿後、朝食や服薬の前に測る  
夜…寝る前または夕食前に測る

◎測る回数 朝と夜それぞれ2回ずつ測る（2回測った平均値を記録する）

◎測るときの注意点

- ・寒くない環境で測り、測定中はおしゃべりをしない
- ・机に血圧計を置き、座って1～2分安静にしてから測る
- ・腕を机の上に乗せ、心臓と二の腕が同じ高さになるようにする
- ・二の腕に腕帯(カフ)を巻くタイプの場合は、素肌か薄手の肌着の上から巻く
- ・いつも同じ側の腕で測る



## ご存じですか？ 「ヒートショック!!」

ヒートショックとは、急激な温度変化によって、血圧が急に変動する現象をいいます。

急に暖かい場所から寒い場所に行くと血圧が急激に上昇し、血管に大きな負担がかかって、脳卒中や心筋梗塞を起こしやすくなります。

特に冬場は、屋内外の気温差が大きく屋内であっても暖かいリビングから一歩出ると、廊下・トイレ・浴室などは冷えており、気温差が大きくなるため注意が必要です。

◎ヒートショックを予防するためには…

- ・外出するときは、きちんと厚着をし、首筋や足元もしっかり防寒しておきましょう
- ・暖かい部屋から寒い廊下やトイレなどに行く場合は、上着や靴下・スリッパなどを着用しましょう
- ・入浴する際は、脱衣所や浴室を事前に暖めておき、熱い風呂や長風呂は控えましょう